



新編  
入板  
繪合六本板  
三

遠13  
1675  
3



1675  
3



狩野友正 川苗集成 繪合六本 枚巻之三

乾嶺白雲寺其又場之山城の國傳は嶽なる人ぞ  
の覺之包人御座り稀ありと云人集居の天の勅許して  
同玉島也那ふまらし其の都の島ありて心定むと古巻あり  
魔界の女あり冷血の曲り下以東店と建てをあらはれを  
ちり松林山丹の地月は陰居りまを文居り帝城あり重奈  
西の経面とる希坊と名ありて旗とありて西巻あり相あり  
中の膳居り谷地ありとがさるる傍ありて文の松林と名あり  
舟の夜は遊遊と名ありと名ありと名ありと名ありと名あり  
川と名ありと名ありと名ありと名ありと名ありと名あり







此の後は... (Right page handwritten text)

及ふ者の... (Left page handwritten text)



六ノク

三五



六ノク

三五

毎朝のそとへおつては皆始つては合つては後まゝにさういふやうに  
種々なるものがあるが、そのうち最も多いのは、  
そのうちには、  
まのうちに、  
後念は、  
今、  
廣信、  
中、  
この、  
後、

この、  
後、  
今、  
廣信、  
中、  
この、  
後、









Handwritten text in a cursive script, possibly a mix of Latin and another language, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically on the right page of an open book. The script is dense and difficult to decipher, but appears to be a continuous passage of text.

維合六本抄卷之三終

